

アコと人生…この人にインタビュー《第10回=その2=》「松川 正則さん」

—承前—

(以下、は松川さん、「◎」は佐々木さんまたは取材者の言葉です)

◎ 松川さんが活動されている障害者団体の様子を少しお話しいただけますか。

 基本は「千葉県視覚障害者の生活と権利を守る会」という所で現在役員をしています。いろいろな人とのかかわりの中で運営することになるので前号で話した山の会の人とかつながりが出来ていくんです。

そんなつながりで、視覚障害者の方に職業訓練のひとつとしてパソコンを教えています。ウィンドウズになる前は、音を出す専用の大きなソフトが必要で大変だったのですが、ウィンドウズになってからのパソコンは標準的に音の出るタイプなので視覚障害者用に独自なことをしなくても音さえ乗せてあげればある程度使えるようになります。

一般的のパソコン教室とは教え方が異なるので、私達が手を上げて視覚障害者同士で教室を立ち上げました。その最初に始めたパソコン教室をキッカケに広がって行き、現在では視覚障害者の作業所にまで大きく育ちました。場所は千葉市稻毛の駅前にあり家内の勤務先でもあります。

仕事がない人が結構いるので、千葉市の行政の協力を得てディサービス（日常生活の支援の場）ということで運営しています。パソコン教室は日曜日にその作業所を使って開いているボランティアです。

◎ 松川さんは土曜教室のときニュース担当で、教室のニュースを作っていたんです。

あの頃は私もパソコン始めたばかりで、変換の「間違い工事」が多くたんですね。

◎ だから、時々松川さんらしい変な字があつたわね。（笑い…それはお愛嬌で）

◎ 文字を変換するときどうやって確認するのですか。

 それはソフトの開発が進んで、コンピューターがお利口になっていますから、文字を判別して「こういう字を書いていますけど確認してください」とじゃべってくれるんです。

それを確認したり、「音と訓」という読みにするど、松川の「松」は“しょう”、「川」は“せん”といって（サンズイの河）と書くと間違えちゃうので、音と訓を併用した読ませ方をして絞り込んでいくのです。私達のパソコン教室ではホームページとかメールが書ければいいというくらいのトレーニングです。

◎ そういう点では私達健常者にとっても大変便利になっていますね。

 私達、視覚障害者が“これを改良してください”と頼んできたことが、今いろんなところで活かされてきています。例えば、「カーナビ」などもそうです。あの音声は、視覚障害者のノウハウを活かして、合成音ですけどもちろん読ませています。JRなどで流している駅の放送もそうです。

◎ あれってテープで流しているんじゃないの。

合成音です。あれは、アナウンサーの声 をぶつぶつに切ってそれをつなげて、行き先と間の言葉と経由などが別々に入っていて、それをつなげて発声しているんです。そういう点では、視覚障害者も声を上げていって役に立っている。世話になっているだけじゃないのかなって思いますね。

◎ そういうボランティア活動をする中でアコーディオンを使うことはあるんですか。

 使いたいですね、まだ十分じゃないんですけど。

◎ 例えば、クリスマス会などやるんですか。

 残念ながらまだ文化的には進んでいません、仕事だけで精一杯なんですね。ただ、せっかくアコーディオン習っているんだから活かしたいですよね。もったいないって感じますね。

◎ 人生の中で“アコーディオンと出会ってよかったな”と思えたことはありますか。（他の楽器の方が良かったかなとか）

 いやあ、他の楽器とは思いませんけども、

 音楽って言葉を使わなくても通じるじゃないですか。眼が見えなくてもコミュニケーションが取れるというか、出した音を相手がどうやって受

け取ってくれるかは別ですけども。喜んでもらえたり、ただ、本当にみんなに喜んでもらえるようなレベルまで行っているのかなあというところがあるから、まだまだ勉強だなって思っています。

◎ こんなことをやってみたいとか、「夢」はありますか。

鼻歌のようにアコーディオンを弾きたいですね。(弾くぞって構えるんじやなくて?) そうそう構えるんじやなくて……

そうですね、そのように音がだせたらいいですねえ。

先日テレビで「イタリアのある村の物語」というドキュメンタリーみたいな番組で、最近アコーディオンを始めたという人がアコーディオンを弾いていて、上手くないんですよ。でも、外国人って“サマ”になっているんですよね。音も簡単な音なんですけど、それこそ、私達が初級教室でやっているような音かも知れないけど、それがなんとも言えず“いいなあ”という感じなんですね。そういう音つていいなあと思ったんです。

私も、普段の生活の中で「弾いて」ついわれたら“ううん”とこうアコーディオンを持ち上げて弾ければいいなあと思うんですね。それが「夢」ですかね。

身体の一部というのか、今は構えて、何か“練習しないとダメ”みたいに弾いているけど、もうちょっと何とかならないかなあって思っているんです。だから練習に来ているんですけど(笑い)

◎ アコーディオンに限らず、音楽を聴きに行くことはありますか。

はい、ちょくちょく聴きに行きます。映画を見ていても、やはりアコーディオンの音って気になります。ちょっと聴こえてくると、あつ、いいなあと思っちゃう。こういう風に使うのかあとかね、何か、場面場面をアコーディオンが引き込んでくれるっていうか、そういう力がある。そういう意味ではアコーディオンでよかったです。ギターではまだそういう魅力まで行かなかつた。

アコーディオンは続けていたからではないかと思うんです。一応20年です、これ、続けていないと味わえない世界なのかなあ。

◎ 松川さんは、いつも前向きに、積極的でいる気がする。何か、「こうしよう」みたいなことって

あるんですか。

プラス思考はあるかもしれません。

視覚障害の方がみなそうとは限らないけれども、何ていうのか、眼に障害があったことがそういうものをつくって来たのかも知れません。◎ 障害がマイナスになるんじゃなくて、プラス思考に変えた?

う~ん、突然見えなくなった人はそんなこと言わないと思いますけど、見えない世界もまんざらじゃないっていうのかな、前の号で話した譜面じゃないけれど、譜面を見ることで逆に障害になっている人もいるわけですから。(ドキ!笑い)お化けも見えないから怖くないし(笑い)そんなことって結構あるんですよ。

◎ 松川さんって全身が眼だなって思う。いつだったか、車が、今度はバスが来たとか、やれちっちゃい車だととか判るっていったものね。他にも、電車のホームに立っていたら、「あっ、こおろぎが鳴いていますね」って言ったの。誰も気がつかなかつた。で、言われてから神経集中して、本当だって皆思ったことがある。

音っていえば、下手とかそういうことじゃなく、やっぱり続けてきたからメンバーの音づくりみたいのがあるし、だんだん音が合ってくるのが楽しいっていうか。そうですね…。

◎ 大変興味のある話であつという間に時間が来てしました。千葉まで帰るのでしょうからこの辺りで終わりにしましょう。

◎ 今日は練習後に時間をとつていただきありがとうございました。来年の20周年記念コンサートを楽しみにしています。

写真は、門前仲町駅のホームにて松川さんを見送ったときのスナップ。(右は取材に同席してくださいました佐々木さん) =第10回=終わり



《文責：乙津》